

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2018

April
No.1074

4月

表紙

本別高等学校普通科第70回卒業
証書授与式を終え、47人の卒業
生がそれぞれの道へ進みます



Pick up

- 町政・教育執行方針、平成30年度当初予算
- 特集 本別町のお金の使いみち
- 町健康管理センターに子育て世代包括支援センターを設置します
- 勇足地区でコミュニティ・スクールが始まります!!

安心と活力と、夢あふれるまちづくり

3月6日の町議会第1回定例会で、高橋正夫町長が町政執行方針を、中野博文教育長が教育行政執行方針を示しました。平成30年度のまちづくりの方向性について、その概要をお知らせします。



基幹産業である農業は、体质強化に向けて国の施策を活用しながら、さらなる振興策の具体化を図ります

主要な施策 推進の基本的な考え方

①生涯を通じて学び、夢と 未来を育むまちづくり

町民の皆さまが、安心と活力と夢あふれる生活を創造していくために、行政や各関係機関、団体などとの協働による町づくりを推進するところにあります。町の風事業の推進と教育環境向上に努めてまいります。

②地域資源を活かした 豊かなまちづくり

本町の基幹産業である農業生産は、一昨年の天候不順、台風被害の影響にも心配されました。作物は、収量・品質ともに平年作を上回る出来となり、畜産においても一部乳量の減産があつ

たものの、家畜の販売も高値で推移してきたところです。しかし、農業を取り巻く情勢は、EUによるTPPの大筋合意は11月にはEPA交渉が妥結し、国際農林水産業への影響額も示される中、国内対策はあるものの北海道農業、地域経済への大きな影響が懸念されているところです。

農業基本構想の諸課題解決、農業の体质強化に向けて、国と支える家族経営支援を含め、今後も商業を担う人材育成に努めます。喫緊の課題であります人材不足、担い手の確保は、雇用の創出と運動、移住対策、農福連携など関係部局との連携協議を図り、担い手の育成機関である農業大学校、関係機関、関連企業との情報交換や協議会設置などの検討を進めることも、また、翌年の育成農受入対策を含めた施策の推進を行っています。

次に、農地の基盤整備は、継続した基盤整備として道営畑地本別公園や道の駅などの観光施

り、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環が実現しつつあるとされておりますが、個人消費は未だ力強さを欠いた状況となつており、今後の地方財政を取り巻く環境は、厳しい状況が続くものと思われます。

私の就任以来、一貫して町民と歩んできた協働のまちづくりを基本理念に、将来を担う子供たちの健やかな成長および教育の充実と、暮らしの安全・安心を守る健康・福祉・介護・医療・防災など、町民生活を原点にサービス基盤の整備を全力で推進することができたことに対し、改めて敬意を表し、深く感謝を申し上げる次第であります。

現下の我が国の経済は、アベノミクスによる施策の実施によ

り、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環が実現しつつあるとされておりますが、個人消費は未だ力強さを欠いた状況となつており、今後の地方財政を取り巻く環境は、厳しい状況が続くものと思われます。

私の就任以来、一貫して町民と歩んできた協働のまちづくりを基本理念に、将来を担う子供たちの健やかな成長および教育の充実と、暮らしの安全・安心を守る健康・福祉・介護・医療・防災など、町民生活を原点にサービス基盤の整備を全力で推進することができたことに対し、改めて敬意を表し、深く感謝を申し上げる次第であります。

現下の我が国の経済は、アベノミクスによる施策の実施によ

町政に臨む 基本姿勢

現下の我が国の経済は、アベノミクスによる施策の実施によ

り、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環が実現しつつあるとされておりますが、個人消費は未だ力強さを欠いた状況となつております。

現下の我が国の経済は、アベノミクスによる施策の実施によ

り、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環が実現しつつあるとされておりますが、個人消費は未だ力強さを欠いた状況となつております。

現下の我が国の経済は、アベノミクスによる施策の実施によ

り、雇用・所得環境は大きく改善し、経済の好循環が実現しつつあるとされておりますが、個人消費は未だ力強さを欠いた状況となつております。



住環境の向上を図るために本別町住宅政策推進計画を基本に公営住宅の整備を実施します



本別町子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から子育て期まで切れ目がない支援を行います

を行っております。
また、認定こども園、へき地保育所の利用者負担の軽減については、平成29年4月から大幅な見直しを進め、子育てしやすいまちづくりを推進してまいります。
さらに、「児童発達支援センター」による「児童発達支援事業」「放課後デイサービス事業」「保育所等訪問事業」を実施し、支援が必要となる子どもの地域社会への参加と包容の推進を目指してまいります。

全国的に子どもの貧困が大きな社会問題となつておりますが、子供たちの生活実態、家庭への支援に対するニーズの基礎資料を得るために、子どもの生活に関するアンケート調査を実施いたします。

高齢者福祉および介護保険事業は、「第7期銀河福祉タウン計画」により、高齢者福祉施設の充実を図るとともに、介護保険事業の安定した運営に努めるため、関係機関や市民の皆さまと協力して推進してまいります。

介護人材の確保は、本町にとつて緊密の課題であることから、介護サービス事業所等の現状や意向を踏まえながら、引き続き「総合的な介護人材確保対策」の充実に努めてまいります。

地域包括支援業務では、医療・介護サービスや生活支援サービ

ス、地域の見守り等切れ目のない支援体制の構築に努めてまいります。

④快適でやさしさのあるまちづくり

町道整備につきましては、継続事業7路線の道路改良・舗装工事および橋りょう長寿命化事業を実施してまいります。

交通手段を持たない町民の足を確保するため、ふるさと銀河線代替バス、生活維持路線バス「浦幌」本別線、太陽光発電システム導入費助成事業、住宅の改修や新築住宅に対する助成事業、「空き家住宅等除去支援事業」を引き続き実施するとともに、「木造住宅耐震改修等補助金」を本年度創設し、既存木造住宅の耐震性の向上を図り、安心して生活ができるまちづくりを推

地に3か所、勇足、仙美里、美里別地区にそれぞれ配備を進め、町民生活の安心・安全を確保するとともに、広報等による防災意識の啓発、町民を対象とした防災研修会を開催してまいります。

さらには、交通事故のない、犯罪のない明るく住みよいまちを目指し、町民一人ひとりの防犯・交通安全意識の啓発に努めています。

進してまいります。

次に、水道事業は、施設の整備や維持管理を計画的に進め、安全で良質な水を安定的に供給できるよう努力してまいります。下水道は、施設の整備と維持管理に努め、水洗化の促進を図り、浄化槽整備事業につきましても、引き続き事業の推進を図つてまいります。

公園緑地の整備は、全道各地から観光客が訪れます義経の里向上を図るため「本別町住宅政策推進計画」を基本に実施してまいります。

つきましては、平成31年4月か

ら資源ごみと小動物以外は帶広

市との「くりりんセンター」への搬入となることから新たに

「ごみ名人トランの巻」を作成し

全戸配布とともに、ごみの出し方などについて町民説明会を開催し周知徹底を図つてまいります。

また、住宅用太陽光発電シス

テム導入費助成事業、住宅の改

修や新築住宅に対する助成事業

、「空き家住宅等除去支援事業」

を引き続き実施するとともに、

「木造住宅耐震改修等補助金」

を本年度創設し、既存木造住宅

の耐震性の向上を図り、安心して生活ができるまちづくりを推

健康づくりは、乳幼児から高齢期まで、健やかに安心した生活が送れるよう各種検診事業の普及啓発に努め、特に生活習慣病の予防を重点に取り組んでまいります。

母子保健は、妊娠一般健康診

査の助成、健診に通院するための交通費助成を行なうほか、不妊治療費、不育症治療費助成につきましても引き続き実施し、子どもを望む人の支援を行つてまいります。

公営住宅の整備は、住環境の里から観光客が訪れます義経の里向上を図るため「本別町住宅政策推進計画」を基本に実施してまいります。

化する社会に対応するため、引き続き協働の視点で、町民の皆さまや企業、団体、学校などと連携し、これまで培ってきた町民力、地域力、行政力が發揮できるまちづくりを進めてまいります。併せて、行政の持つ情報報を積極的に公開し、町政の「透明性・公平性」に努めてまいります。

次に、行政改革は、第5次

行政改革大綱と推進計画に基

づき、本別町の将来の展望を見

索し、効率的な行政執行を推進

してまいります。

今後、人口減少等による公共

施設の利用需要の変化や財政状況の厳しさが予想されることを踏まえ、「本別町公共施設等総合管理計画」に基づいた長期的、

な視点を持つて、更新・統廃合、

長寿命などを計画的に行なうこ

とにより、財政負担の軽減平

準化に努めてまいります。

地方創生は、4年目を迎えて、

引き続き府内に設置した「本別

町まち・ひと・しごと創生推進

本部」を中心に、町民の皆さま

や関係団体の意見を聞きながら

本町における人づくり選定や地

域総合戦略の進捗状況の確認評価を進めて適切な執行に努めてまいります。

次に、広域行政の推進は、十

の運営に対する支援に努めてまいります。

権利擁護事業は、社会福祉協議会と連携しながら、法人後見事業の取り組みや担い手の育成、「あんしんサポートセンター」による「あんしんサポートセンター」の運営に対する支援に努めてまいります。

障がい者福祉は、「第1次障がい福祉総合計画」により、障がい福祉サービスの相談支援やマネジメント体制の充実に努めることとともに、障がいを利用することで解消の推進、就労支援システムの構築に取り組んでまいります。

介護サービスや生活支援サービ

ス、地域の見守り等切れ目のない支援を行つてまいります。

議会と連携しながら、法人後見事業の取り組みや担い手の育成、「あんしんサポートセンター」

による「あんしんサポートセンター」の運営に対する支援に努めてまいります。

心の健康づくり事業は、月1回心理カウンセラーや月1回のほつと相談を継続し、月1回のほつと相談を継続してまいります。

老人ホームの運営は、利用者の状態に応じたサービスを適切かつ効果的に提供して、利用者の持つ力を最大限發揮いただき、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援してまいります。

介護基盤の整備は、仙美里地区小規模多機能型住宅介護事業所陽だまりの里に併設して7戸の高齢者向け住宅を整備するとともに、地域密着型特別養護老人ホームの開設に向けた協議を進めています。

次に、国民健康保険特別会計は、本年度より都道府県への広域化が施行されることにより、北海道への納付金が貰えるよう標準税率を用いた税率改正を行なっていますが、引き続き広報紙等に老人大手の開設に向けた協議を進めています。

次に、国民健康保険特別会計は、本年度より都道府県への広域化が施行されることにより、北海道への納付金が貰えるよう標準税率を用いた税率改正を行なっていますが、引き続き広報紙等に老人大手の開設に向けた協議を進めています。

次に、防災対策は、老朽化した施設を進めてまいります。

病院事業は、新たに策定しました病院改革プランを推進しながら、地域医療の確保を図るとともに、地域包括ケアの

構築を進めてまいります。

病院事業会計の運営は、現在

の常勤医師5人体制を維持し、外

来患者および病床稼働率の向上

による収益確保を図りながら、

看護スタッフなどを確保し、外

料費、維持管理費などの経費節減に努め、経営体质の強化に努めてまいります。

次に、防災対策は、老朽化した施設を進めてまいります。

病院事業会計の運営は、現在

の常勤医師5人体制を維持し、外

来患者および病床稼働率の向上

による収益確保を図りながら、

看護スタッフなどを確保し、外

料費、維持管理費などの経費節減に努め、経営体质の強化に努めてまいります。

次に、病院事業は、新たに策

定しました病院改革プランを推進しながら、地域医療の確保を図るとともに、地域包括ケアの

構築を進めてまいります。

病院事業会計の運営は、現在

の常勤医師5人体制を維持し、外

来患者および病床稼働率の向上

による収益確保を図りながら、

看護スタッフなどを確保し、外

料費、維持管理費などの経費節減に努め、経営体质の強化に努めてまいります。

次に、防災対策は、老朽化した施設を進めてまいります。

病院事業会計の運営は、現在

の常勤医師5人体制を維持し、外

来患者および病床稼働率の向上

による収益確保を図りながら、

看護スタッフなどを確保し、外



小学校の英語授業の支援や高校生対象の無料英語塾開設など、英語指導のさらなる充実を図ります



中野博文教育長

教育行政執行の 基本的な考え方

近年、少子高齢化やグローバル化が急速に進行しており、教育行政におきましても、多様化・複雑化する社会情勢の中で多くの課題を抱えていることから、本町が将来にわたって持続、発展していくためには、一人ひとりが主体的に社会と関わり、次代を創り出していく人材育成が必要であり、教育が果たす役割はますます重要になっています。

本別町教育委員会といたしま

ない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、引き続き全ての学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援をしてまいります。

いじめや不登校の根絶に向けて取り組みにつきましては、引き続き中学校にスクールカウンセラーを配置するほか、年2回のアンケート調査、学期ごとの学校指導訪問の実施など、未然防止・早期対応に努めてまいります。

本別高校への支援につきましては、少子化や生徒が希望する進路先の多様化等により、入学生の確保が大変厳しい状況であることから、町外からの入学生を呼び込むために音更・本別間の無料通学バスを運行するなど、新たな支援策を講じることも、今後における本別高校への支援のあり方等について、関係機関と連携し、その方向性を見いだしていきます。

食育の推進につきましては、地場産農畜産物を積極的に用い、おいしく栄養バランスに配慮した学校給食を提供するとともに、栄養教諭が各学校に出向いて、食育に関する指導および授業を行つてまいります。また、増加傾向にあります食物アレル

ギーに対しましても、除去食や代替食により対応してまいります。

社会教育の推進につきましては、学校給食費の無料化を図ります。

社会教育の推進につきましては、「第8次社会教育中期計画」に基づき、全ての町民の皆さんに心豊かに充実した生活を營むことができる、本別魅力を再発見する「ほんべつ学」、高齢者を対象とした「義経教室」、ジユニアリーダーを育成する「本別・南三陸ふるさと交流研修会」等の各種事業を実施してまいります。

ストップ・ク事業を継続するとともに、「本のまち夢づくり講演会」や出前授業を開催するなど、読書の普及と町民ニーズに沿つて、本別高校に在籍している同上級者の3人目以降の児童生徒に対する取り組みにつきましては、本別高校にて、本別立小・中学校および本別町立小・中学校によるよし

は、平和の大切さを未来へ継承する「7月15日本別空襲を伝える」企画展をはじめ、「北海道名150年」にちなんだ「北海道150周年」企画展を開催するなど、あらゆる世代が学びあえる場となるよう努めています。スポート振興につきましては、昨年度に引き続き「健康新規事業」や「義経の里・スポーツフェスティバル」等の開催をはじめ、年齢や体力に応じたスポーツ教室・講習会等を開催するなど、町民の皆さんのがスポーツに親しみ健康な日々を送ることができます。

歴史民俗資料館につきましては、平和の大切さを未来へ継承する「7月15日本別空襲を伝える」企画展をはじめ、「北海道名150年」にちんだ

る「北海道150周年」企画展を開催するなど、あらゆる世代が学びあえる場となるよう努めています。

スポート振興につきましては、昨年度に引き続き「健康新規事業」や「義経の里・スポーツフェスティバル」等の開催を



学びフェスタを通して四つの風「光風・祈風・夢風・実風」事業を展開します

コミュニティ・スクールが勇足地区で本格導入。平成31年度には全町的に展開します



平成30年度本別町の予算

総額 115億1,593万5,000円

一般会計 66億9,151万3,000円

特別会計 31億8,859万9,000円

企業会計 16億3,582万3,000円

予算編成

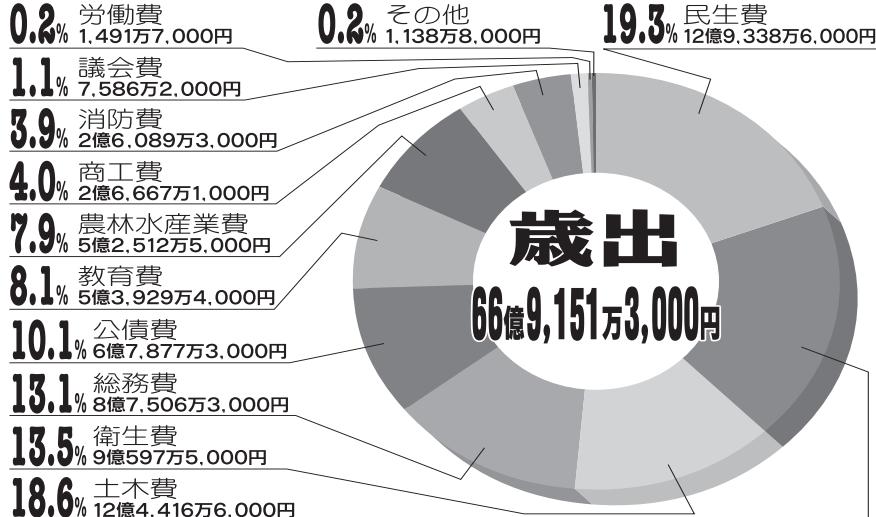
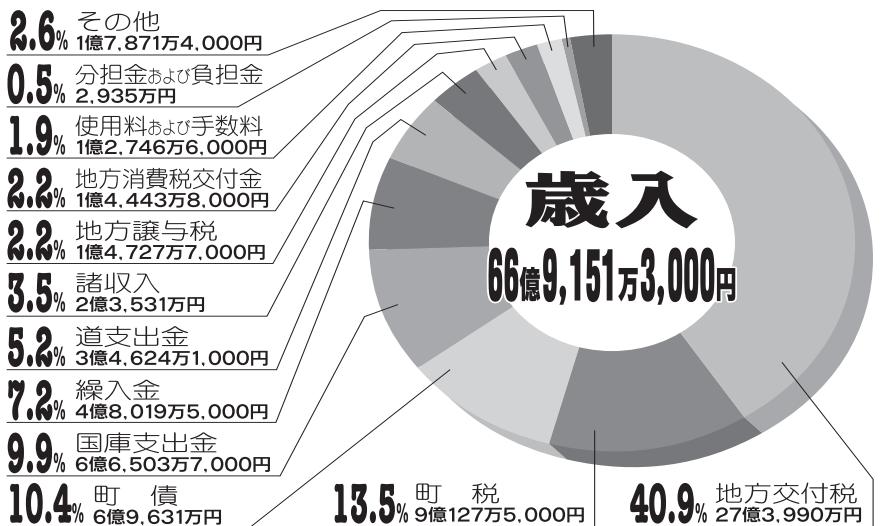
平成30年度の予算規模は、一般会計および特別・企業会計を合わせて総額115億1,593万5千円となり、前年度比3.2%の減となっております。予算編成にあたっては、財政健全化に配慮しつつ、総合計画に掲げる本別町の主要懸案に対処するため必要な施策を盛り込んだ予算としました。

一般会計予算の概要

一般会計予算の総額は、66億9,151万3千円で、前年度当初予算66億4,165万5千円と比較し、0.1%の増となっております。歳入について、町税はその13.5%を占めていますが、主に町民税の大きさを見込み、前年度当初予算と比較し1.0%増の9億1,275万5千円を計上しました。なお町税のうち入湯税は、観光振興や環境衛生施設等の整備などに充てることを目的とした地方税で、2,555万5千円を計上しています。地方交付税は歳入の40・9%を占めていますが、これまで特例措置とされてきた歳出特別枠(※)廃止などにより、前年度当初と比較して7・0%減の27億3,990万円としました。歳入金は、財政調整基金をはじめとした基

※歳出特別枠
平成20年のリリーマン・ショック後の地方の経済・雇用情勢の悪化等により、景気対策として設けられた地方交付税の加算措置。平成20年度より、国内の経済再生傾向を踏まえ、その廃止について議論が続けられました。

金額入金を4億8,019万5千円とし、前年度と比較して62.4%の増となりました。地方債は大型事業の完了などにより、前年度比3.1万円を計上しています。歳出は少子化対策として、子育て支援に関する事業として、引き続き不妊症・不育症治療の支援を行い、また、多子世帯を図るほか、認定こども園での教育支援を行っています。また、町内の消費大策として、新規就農者支援の充実を図ります。一方で、農業振興基金を活用し、農業振興や環境衛生施設等の整備などに充てることを目的とした地方税で、2,555万5千円を計上しています。その他の主な事業は、替事業や道路改良舗装事業をはじめ、総額7,065万6千円を確保しました。



各会計別当初予算額

会計区分	本年度 A	前年度 B	差引(A-B) C	C/B × 100
一般会計	66億9,151万3,000円	66億8,416万5,000円	734万8,000円	0.1%
国民健康保険	11億9,098万円	14億1,574万2,000円	△2億2,476万2,000円	△15.9%
後期高齢者医療	1億2,746万3,000円	1億2,207万9,000円	538万4,000円	4.4%
介護保険事業	9億7,302万円	9億7,041万6,000円	260万4,000円	0.3%
介護サービス事業	2億9,026万円	2億8,547万7,000円	478万3,000円	1.7%
簡易水道	1億2,019万5,000円	1億3,712万5,000円	△1,693万円	△12.3%
公共下水道	4億8,668万1,000円	5億2,512万4,000円	△3,844万3,000円	△7.3%
小計(1)	98億8,011万2,000円	101億4,012万8,000円	△2億6,001万6,000円	△2.6%
水道事業	収入 1億6,448万8,000円 支出(2) 1億6,448万8,000円	1億6,551万6,000円 1億6,551万6,000円	△102万8,000円 △102万8,000円	△0.6% △0.6%
資本的取支	収入 230万円 支出(3) 6,131万7,000円	4,840万円 1億1,508万2,000円	△4,610万円 △5,376万5,000円	△95.2% △46.7%
病院事業	収入 11億3,548万5,000円 支出(4) 12億8,841万7,000円	12億2,610万4,000円 12億7,926万2,000円	△9,061万9,000円 915万5,000円	△7.4% 0.7%
資本的取支	収入 8,765万7,000円 支出(5) 1億2,160万1,000円	1億6,379万2,000円 1億9,374万9,000円	△7,613万5,000円 △7,214万8,000円	△46.5% △37.2%
合計(1)+(2)+(3)+(4)+(5)	115億1,593万5,000円	118億9,373万7,000円	△3億7,780万2,000円	△3.2%

特集

本別町のお金の使いみち

今年度主な事業あれこれ

☆印は新規事業です

平成30年度の一般会計予算の主な事業について、
ソフト事業、ハード事業に分けて説明します。

ソフト事業編 Part1

活動や仕組み、技術、情報、サービスなど
※ソフト事業目的のため整備されるハード事業を含む

本別町行財政改革の推進

第5次行財政改革大綱の推進（平成28～32年度）

- ・補助金の見直し
- ・公共施設の適正配置等の検討



いきいき商品券発行業務

いきいき商品券10,000円分5,000セット発行にあたり、
プレミア率15%相当分を商工会へ補助します。 790万円

子育て支援の充実

★保育補助者雇用強化事業

認定こども園ほんべつにおける保育教諭の業務をサポートし、より充実した教育・保育環境を整えるため、保育教諭等の資格を持たない保育補助者の雇上げに必要な経費を補助します。

443万円

★子育て世代包括支援センターの設置

健康管理センター内に子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠婦・乳幼児等の継続的・包括的な状況把握と、保健師等専門職による相談対応を行うとともに、それぞれのケースにおいて必要な支援を総合的に調整することで、妊娠婦や乳幼児等に対して切れ目のない支援を行います。

★多子世帯に対する学校給食費の軽減

学校給食共同調理場で給食を提供している小・中学校および高校に在学している同一世帯の3人目以降の児童生徒に対して、学校給食費を全額免除します。

雇用対策事業の推進

○季節労働者雇用対策事業

中央小教員住宅解体業務 441万6,000円

○ワークシェアリング枠（高校生2人）345万6,000円

総事業費 787万2,000円

不妊・不育症治療費助成事業

妊娠・出産を望む人を支援するため、不妊症または不育症治療を受けている人の経済的負担の軽減を図ります。 60万円

インフルエンザ予防接種助成

対象：幼児、小・中・高校生、高齢者

330万6,000円



特定健診および各種がん検診の充実

767万8,000円

病院事業医療機器購入

X線発生装置の更新など

3,320万8,000円

地域包括ケアプロジェクト推進事業

総合的なチーム医療介護体制の確立により、町民の暮らしの安心を構築します。
・地域医療・介護人材の確保に向けたネットワーク構築、採用支援等
・将来的な介護基盤整備に向けた支援等

1,100万円

介護従事者就業支援等補助金

町内の民間介護サービス事業所において新たに就職する介護従事者を対象に、就業支援補助金（就職支度金、就業支援金）、住宅準備支援補助金、養育支援補助金を支給します。

395万円

☆オレンジセーフティネット運用

行方不明者等の捜索を支援するスマートフォンアプリを運用します。

あらかじめ徘徊等が心配される家族の情報や、捜索があった場合に協力の意思のある人の情報を町に登録します。捜索の必要があった際には、専用アプリを活用し、行方不明者の情報や捜索の状況をリアルタイムで共有。早期発見につなげます。

38万9,000円

☆防災対策の推進

- ・防災ガイドマップの作成
利別川流域の72時間想定雨量308.1mmを想定した氾濫想定区域図の更新
- ・全国瞬時警報システム（Jアラート）受信機の更新
- ・防災行政無線整備に係る調査・設計委託

90万2,000円

585万3,000円

486万円

体育の日イベント「義経の里スポーツフェスティバル」の開催

子どもから大人まで世代を越えてスポーツに取り組み、世代間交流を深めるため「第6回 義経の里スポーツフェスティバル」を開催します。

28万2,000円

スポーツイベント「ほんべつ健康ウィーク2018」の開催

誰もが気軽に参加しやすい独自のスポーツ週間を設定し、スポーツに触れる機会を提供することによって、健康づくりを推進します。

20万8,000円

☆コミュニティ・スクールの本格導入、調査・準備の推進

勇足地区において学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」を本格導入します。また、本別・仙美里地区においても来年度の本格導入に向け、引き続き調査・準備を進めます。

44万2,000円

☆英語教諭の配置

英語教諭を任用し、小学校の外国語（英語）授業を支援するほか、高校生等を対象とした英語学習の場を提供するなど、本町の学びの主軸である英語学習のさらなる充実を図ります。

325万2,000円

☆国際交流研修

オーストラリア・ミッセル訪問

国際姉妹都市オーストラリア・ミッセルに中高生を派遣し、両町の交流・親睦を深めるとともに、外国の歴史や文化などに触れ国際理解教育の推進を図ります。

340万円

本別高校の教育を考える会補助金

本別高校の存続および方向性を探るために調査・研究を進め、特色ある学校づくりを支援します。

入学の準備にかかる制服の購入費補助、遠距離通学補助、下宿代補助などを行います。また、平成30年度から新たに音更線通学バスを運行します。

2,870万5,000円

☆公民館施設設備品更新

中央公民館の老朽化した椅子・テーブルを更新します。

- ・大ホール椅子 400脚
- ・視聴覚室会議用テーブル 26枚

632万円

☆郷土資料データベースによるふるさと情報の発信

図書館および資料館の郷土資料情報をインターネットで公開し、本別町の歴史をわかりやすく、広く伝えます。学校での歴史学習、個人の郷土史調査などに対応し、地域の知につなげます。

9万1,000円

☆資料館企画展

「(仮称) 北海道150年展」

北海道命名150年にちなみ、名付け親の松浦武四郎が残した地図の大型レプリカや本別町の開拓関係資料を展示し、歴史から郷土の特色を知る講座を開催します。

5万円



ソフト事業編 Part2

活動や仕組み、技術、情報、サービスなど

※ソフト事業目的のため整備されるハード事業を含む

本別町住まいの環境整備促進事業

・住宅改修等助成交付事業

町内業者を利用した住宅リフォーム費用を一部助成します。

- ・工事費30万円以上は10万円助成
- ・空き家バンク登録物件の購入・賃借で工事費100万円以上は30万円助成

910万円

・住宅新築助成事業

町内に一定規模（50m²・500万円以上）の自宅を新築し居住した際に100万円を助成します（町外業者を利用した場合は20万円）。

800万円

☆木造住宅耐震改修等助成事業

昭和56年5月31日以前に着工した木造住宅（2階建てまで）の耐震診断・耐震改修工事に対して助成します（耐震診断…上限3万円、耐震改修…上限30万円）。

105万円

☆新規就農者等支援事業

本町での就農を目指し、営農実習、農業体験、研修を実施しようとする新規就農予定者および受入れ農家を支援します。また、新規就農者に対して農業経営の維持発展に必要な営農資材等を支援します。

1,121万円

町内間育成牛預託事業

酪農家の高齢化や規模拡大による労働力増大に対応するため、加重対策として育成牛の預託に対し支援します。

273万8,000円
(町負担分 91万3,000円)

生乳生産基盤安定特別対策事業

経産牛・初妊牛の導入および雌性判別精液利用産子保留に対し支援します。

795万円
(町負担分 195万円)

地方創生関連事業

観光振興事業

○食と観光の商品力・販売力強化

チャレンジ事業 2,150万円

- ・新たな食資源創出生産プロジェクト
- ・地域産品販路拡大実証（独自販売ルート構築）
- ・3町地場産品を活用した新たな食ブランド構築
- ・圏域周遊モダルルート開発
- ・拠点施設等魅力創出（道の駅連携）

○人材育成事業 70万円

- ・観光戦略拠点化人材育成

総事業費 2,220万円

移住促進事業

○とかち東北部移住サポート

センター運営 451万6,000円

- ・移住アドバイザー
- ・サポートセンター運営

○首都圏プロモーション 47万9,000円

- ・フェア出展等

○受入体制整備 65万5,000円

- ・移住体験用住宅改修
- ・空き家、求人情報システム運用

総事業費 565万円

その他農福連携の推進、地域おこし協力隊の活用、

地域包括ケア推進、十勝管内広域連携事業

総事業費 2,781万円

町有林造林事業

新植 18.11ha、下刈 38.66ha、準備地拝 5.00ha、間伐 26.52ha
3,275万円

未来につなぐ森づくり推進事業
民有林の植栽 45ha、準備地拝 35ha

1,126万円

民有林造林促進事業

人工造林 3ha、下刈 155ha、除間伐 78ha、造林未済地対策 48ha、秋植栽加算 10ha

543万2,000円

美蘭別地区営農用水事業

道営美蘭別地区営農用水事業負担金
平成28年度から本工事実施

1億3,691万円

農業農村整備事業の推進

団体営事業

☆農地耕作条件改善事業

・本別地区 明渠排水=180m

道営事業

☆防災減災事業

・美里別東地区 調査設計測量

・新規地区計画 5,830万円

(町負担分 2,041万円)

てん菜収穫原料ストックポイント整備事業

ストックポイントの固定化により、排水不良地や遊休地等の有効活用を図るとともに、収穫から出荷までに長期管理が必要となる農業者を対象に防雪ネットの整備を支援します。

2,662万8,000円
(町負担分 580万円)

☆雪寒車両購入事業

老朽化に伴い除雪トラック 1台
を更新します。

5,657万1,000円

**☆町内小中学校の煙突改修
(3月補正予算計上事業)**

勇足小学校、仙美里小学校、本別中学校
および勇足中学校の煙突を改修します。

5,061万8,000円

ハード事業編

建物、道路などの事業

このほか
道路橋りょう事業として
事業費 3億3,530万円で
12か所を整備します

**栄町団地公営住宅
建替事業**

木造平屋建 2棟4戸、周辺外構、
駐車場整備 4台、道路整備（改良
=119m、舗装=179m）など

1億2,523万8,000円
(事務費除く)

道路橋りょう事業

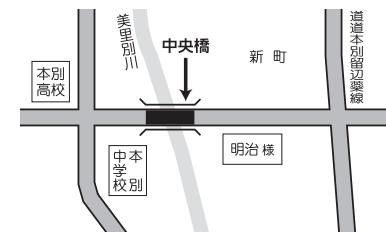
総事業費 4億4,630万円
(事務費除く)

**☆町道中央橋通り中央橋橋りょう
補修工事**

(平成30~32年度)

総延長=152m 支承取替一式

5,000万円



☆町道南広場1号通り舗装新設工事

(平成29~30年度)

総延長=259m 改良=259m 幅員=5.5m

3,200万円

☆町道南広場2号通り舗装新設工事

(平成29~30年度)

総延長=213m 改良=213m 幅員=5.5m

2,900万円

地方創生関連事業

☆旧南保育所改修工事

(仮称・本別町体験・移住
交流館整備)

(3月補正予算計上事業)

実施設計、改修工事

3,793万7,000円
(町負担分 1,898万7,000円)



町健康管理センターに 子育て世代包括支援センターを設置します

妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を提供します！

町では、妊娠・出産から育児までのさまざまな「一括」に対して相談・支援体制の確立を図るため、4月1日から「子育て世代包括支援センター」を北6丁目の町健康管理センター内に設置します。

平成27年度から子育て支援センターで実施している利用者支援事業（基本型）と連携し、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を提供します。

妊娠・出産から育児までの相談・支援体制

妊娠前・妊娠期



ひとりで悩まないで！

相談

支援

子育て世代包括支援センター

(北6丁目、町健康管理センター内)

利用者支援事業（母子保健型）の実施

★保健師が子育てに関する相談をお受けします。来所相談のほか、電話・メール相談も行いますので、どんなことでも気軽にご相談ください

NEW

★各種相談のワンストップ窓口を設置します

★町健康管理センターと子育て支援センターの連携をより密にして充実を図ります

必要なサポートにつなげます

連携

連携

子育て支援センターほんべつ

(南3丁目、認定こども園ほんべつ内)

利用者支援事業（基本型）の実施

★利用者支援専門員（保育士）が子育てに関する相談をお受けします



子育て支援を円滑に受けられるよう支援します

相談

支援（従来通り）

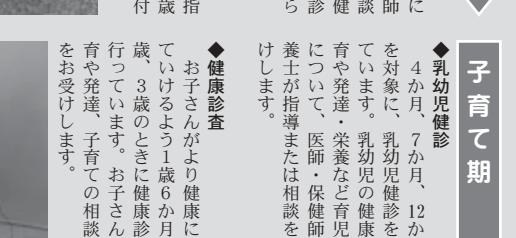
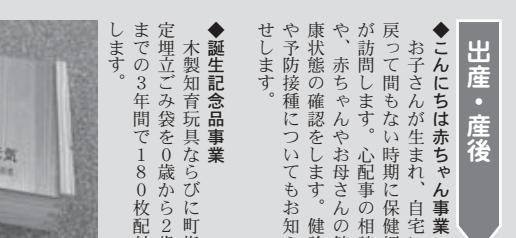
子育てママなど

関係機関

- ・子ども未来課
- ・総合ケアセンター
- ・医療機関
- ・児童発達支援センターよつば
- ・教育委員会
- ・認定こども園ほんべつ
- ・へき地保育所
- ・学校
- ・児童相談所など

子育て世代包括支援センターの業務

同センターは、母子保健施設と子育て支援施策の両面から、妊娠期から子育て期までの子育て支援について、利用者支援事業（基本型）と連携し、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を提供します。



問い合わせ

子育て世代包括支援センター
(健康管理センター) ☎ 22-2219
メール kenkok@town.honbetsu.hokkaido.jp

子育て支援センター ☎ 22-8811
メール nakayoshi@f1.octv.ne.jp

※メール相談の場合は、件名に「子育て相談」本文に相談内容、住所、氏名、連絡先を記載してください





ゆうゆうサークル（魚釣り指導）

★主な先進地事例
俳句授業や洋裁・調理実習などのゲスト講師、校外学習の付添人（安全管理）、放課後学習サポート、小・中学校相互の乗り入れ授業など

「学校運営協議会制度」の導入後、学校はどう変わるのでですか？
保護者の二つや地域の二つの踏ました教育活動を展開することが可能となります。また、地域人材が教育活動へ参加することで生きがいを見出し、同時に子どもの学びや体験活動が広がります。さらに教職員の負担も軽減される効果が生まれます。

勇足地区で コミュニティ・スクールが 始まります!!

教育委員会では勇足地区において、地域・学校・保護者が一体となって学校運営を進める、コミュニケーション・スクール（学校運営協議会を置く学校）を導入します。勇足中学校を核に、学校運営協議会を設置し、地域ぐるみでの学校づくりや人材育成に向けた取り組みを推進します。

コミュニティ・スクールとは？

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会制度」を導入した学校のことです。

「地域でどのような子どもを育てるか」という目標やビジョンを共有し、学校と地域住民が一体となつて学校運営に参加する仕組みです。

これまで学校における教育は、教育委員会と校長の教育方針によって、教職員が子供たちを導いてきました。「コミュニティ・スクールを導入することで、保護者や地域の皆さん 의견を学校運営に反映させることができます。地域の独立性を持つ特色ある教育活動を展開することができます。

「地域の子どもは地域で育てる」を念頭に、地域力を学校運営に活用し、地域で育みを受けた子供たちが、将来ふるさと本別で活躍することを期待します。

※コミュニティ・スクールは、略称で「コミニスク」、「CS」などとも呼ばれます。

保護者
篠原聖法さん

勇足地区は地域行事が多
く、子供たちは地域に支えられていきました。P.T.A.と
して同制度を通してこれ
まで以上に地域内の「ミニ
ニケーション」が深められ
ています。

力をお願いします。
引き続き、ご理解
ご協

地域住民
東野孝男さん

「勇足地区公民館まつり」など、地域ではこれまででも学校と一緒にさまざまな行事を取り組んできました。今後も学校運営に携わり、子供たちの役に立
たいと思います。

勇足中学校立校長
阿部立校長

勇足発コミュニティ・ス
クールがいいよ～スタッフ。
地域にもともとある教育
現場である学校教育に役立
て、一緒に取り組むことで
地域も活性化するという想
いです。できることが無理な
く進めていけたらと思つて
います。

コミュニティ・スクールに期待します！

本別町で、CSは
今後どのように
進められるのですか？

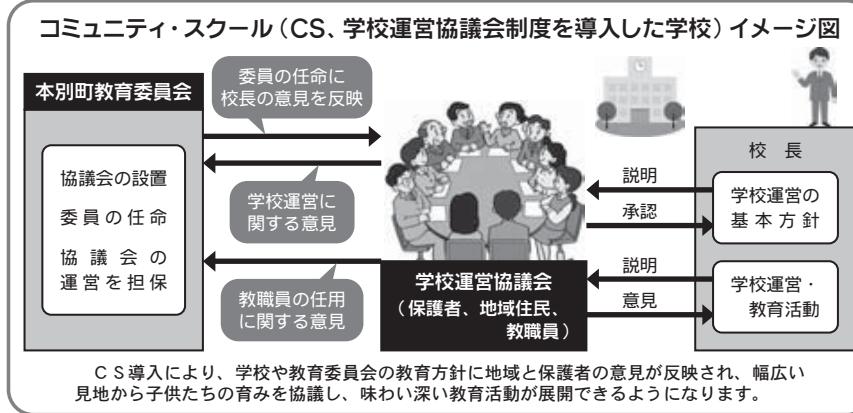
本別町では、平成28年度に勇足地区、平成29年度に本別・仙美里地区においてCS推進委員会を立ち上げ、先進校への視察やフォーラム参加など、本格的な導入に向けた準備・調査を推進してきました。

この平成30年度から、勇足中学校を設置し、勇足小学校と連携しながら地域ぐるみでの学校運営協議会を開始します。本別・仙美里地区においては、平成31年度の本格導入に向けて、引き続き、全地域導入後には、本別町教育委員会を設立し、町内一体となつた取り組みを進めます。

スケジュール

平成31年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
本別町CS委員会設立予定	本格導入（地区学校運営協議会）	準備（地区CS推進委員会）	勇足地区
本格導入（同上）	本別・仙美里地区	準備（地区CS推進委員会）	
			2月28日、本格導入を前に勇足地区で研修会。熟議が行われました

教育委員会
学校教育担当
問い合わせ
☎ 022-123331



2月28日、本格導入を前に勇足地区で研修会。熟議が行われました

学校運営協議会の役割とは？

学校運営協議会の委員には、各学校長から推薦された地域住民や保護者、教職員が教育委員会から委嘱されます。委員の主な役割は、次のとおりです。

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- ② 学校運営について校長や教育委員会へ意見を述べることができる
- ③ 教職員の任用に関する意見を教育委員会へ規則に定める事項について意見を述べができる

受賞おめでとうござります

平成29年度 町教育功績者 少年少女文七

平成29年度本別町教育功績者表彰式ならびに少年少女文化・スポーツ奨励賞授式が3月10日、中央公民館で執り行われ、中野博文教育長から計18個人、4団体の受賞者へ表彰状や記念品が手渡されました。功績者および奨励賞の受賞者は次の通りです。

前田晴美さん（弥生町）
本別中学校に多額の寄付をなされ、
本町の教育振興に寄与されました。



教育功績者

井出良則さん（追名牛）
長年PTA役員として児童生徒の健全な成長に努め、学校教育活動やPTA活動の推進と教育振興に多大な貢献をされました。

本多田國史館
資料館友の会



少年少女文化獎勵賞

【個人】 杉本佳奈



井内千尋（勇足小5）
平成29年度十勝子ども大会
書道の部特

まつ
もと
れ
み
さん(本別中2年)
特選

本別中学校吹奏樂部 (19) 第62回帯広地区吹奏樂コンクール 中学校C編成の部……………金賞 第49回帯広地区アンサンブルコンクール 中学校の部金管五重奏……………金賞

神野由衣さん（中央小2年）
第29回全十勝スポーツ少年団水泳交歓大会
小学2年生女子25m背泳ぎ：第1位
小学5年女子走幅跳：第1位



個人

加藤丈琉	山下仁來	鈴木運音	第39回十勝地区空手道選手権大会	小学1年男子80m	第41回幕別町陸上競技選手権大会	小学1年男子80m	第1位
やまと	しら	すず	さん	(中央小2年)	やまと	やまと	いち
山	下	木	運	（中央小2年）	山	下	木
下	仁	運	音		下	仁	運
仁	來	音	さん		仁	來	音
來	（中央小2年）	（中央小2年）			（中央小2年）	（中央小2年）	
（中央小2年）							
小学2年生男子個人形	第37回北海道少年少女空手道錦成大会	小学1年生男子個人形	小学1年生男子個人形	小学1年生男子個人形	小学1年生男子個人形	小学1年生男子個人形	小学1年生男子個人形
……	……	……	……	……	……	……	……
第5位	第5位	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝	優勝



【団体】

**歌
住
惺
（本別中3年）
KWB十勝選抜N.....優勝**

【団体】本別水泳スポーツ少年団

(4人)

第29回全十勝スポーツ少年団水泳大会
男女混合100mフリーリレー

北海道大会



A group photograph of the 2009 Sports Award winners. The group is composed of about 15 individuals, mostly men, all wearing white lab coats over dark clothing. They are arranged in three rows, with some people standing on chairs in the back row. Behind them is a large black banner with white Japanese text that reads "平成29年度 文化振興助賞 スポーツ賞授賞式".

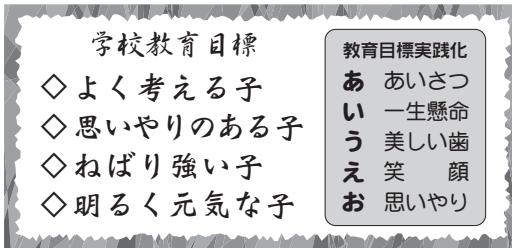
大泉珊瑚 淩さん(本別中1年)
第39回十勝地区空手道選手権大会
中学校男子個人形 優勝
大会 第18回北海道ジュニア陸上競技選手権
女子ジャベリックスロー 第3位

本別柔道少年団 (9人)
第61回全十勝少年柔道大会兼第33回全十勝女子柔道大会
第48回全十勝少年団柔道大会兼第36回全十勝女子柔道選手権大会
第32回全十勝小学生相撲選手権大会
小学生団体戦……………優勝



小川 晴基さん（勇足小2年）
平成29年度十勝子ども大会
絵画の部 特選





勇足小学校（濱田和光校長・全校児童39人）では、地域の豊かな自然や地域住民とのふれあいを生かした「特色ある教育活動」をいろいろと展開しています。また、4月からは「勇足地区学校運営協議会」が組織され、勇足地区におけるコミュニティ・スクールが始動します。保護者や地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を通して、学校と一緒にながら学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んでいきます。



今年も大豊作となった学校水田での稲刈り作業



スケートの楽しさを徳島県の友達に伝えました



芸能発表会で、全校合唱を披露しました

本別高校の生徒から勉強の大切さを学びました

平成29年度

福祉でまちづくり宣言記念事業



平成29年度福祉でまちづくり宣言記念事業（健康長寿のまちづくり会議主催＝井出壬午会長）が3月16日、「これからの福祉でまちづくりを考える」をテーマに中央公民館で開催され、参加者約150人が、これまでの本別町の福祉について考えました。

**助け合いの精神で、
地域の担い手づくりを**

（上）第1部でステージに登壇した（右から）井出会長、澤田さん、柏木さんと木南所長補佐。終始なごやかな雰囲気で活動が紹介されました
（下）第2部で行われたグループごとの話し合いの様子。地域福祉活動のあり方について活発に意見が出されました

今年度は、参加者が気軽に語り合えるようにと、会場がカフェのような雰囲気に演出され、はじめに会場全体で福地でまちづくり宣言文を朗読。第一部では「さまざまな福祉活動を知る」と題し、民生委員児童委員協議会の会長とともに活動する井出会長と介護相談員の澤田満さん、地域おこし協力隊で農福連携事業支援員の柏木祥子さんがステージに登壇しました。3人は総合ケアセンター木南孝幸所長補佐の進行のもと、それぞれの生い立ちや活動内容のほか、福祉に携わったきっかけなどを紹介。会場の参加者からは、3人の取り組みに対する感謝の気持ちや激励の言葉なども寄せられました。第二部では、「福地の担い手」や「福地でまちづくりを考える」を主題に、参加者が3～4人ずつテーブルを開き、思い出話に花を咲かせたり、自分が関わってきた社会活動などについて語らい、その思いを共有。「仲間や地域の人とお互いさまの気持ちを大事にしたい」との声や「団体の活動にはみんなの理解と助け合い、ボランティア精神が大切だと思う」などの意見が出され、多くの参加者がうなづきながら、これから福祉活動のあり方について考えました。

第二部終了後には、健診受診や栄養管理、運動習慣等の健康づくりを呼び掛けける「GENKIくんプロジェクト」が紹介されたほか、あんしんサポート110養成講座「フォローアップ研修修了証」の授与式もあわせて行われました。

2分の1成人式で自分の思いを発表

2|20

10歳の節目に、将来の夢や目標を発表する「2分の1成人式」が2月20日、本別中央小学校で行われ、同校4年生の40人が、保護者を前に日ごろの感謝の思いや楽器演奏、歌を披露しました。これは、総合的な学習の一環として取り組まれたもので、児童らは、授業で作成した5ページ程度のスライドを使い、自分の生まれた頃の写真やそれぞれの思いを紹介。最後は保護者へ手紙のプレゼントもあり、親子の絆を深める授業となりました。引き続き、午後の授業では、「長野県諦訪中央病院」名譽院長の鎌田寅氏による命の大切さをテーマとした講話も行われ、「夢に向かって努力を続け、おもしろい人生を歩んでほしい」とメッセージが送されました。



市街地婦人会が北海道社会貢献賞を受賞

2|22

本別町市街地婦人会（田原美枝会長）が平成29年度北海道社会貢献賞（道路愛護等功労者）を受賞し、2月22日、中央公民館で表彰式が行われました。この表彰は、同会が平成13年から毎年、道勇足本別停車場線の道の駅前ロータリーで花の植栽やその管理を行い、道路の美化と道路愛護の推進に貢献した功績が認められたもの。伝達式には、田原会長ら会員6人が出席し、十勝総合振興局の永山秀明副局长から表彰状が贈られました。田原会長は、「身に余る光榮で、会員はじめ、花壇整備に協力いただいている皆さんに心から感謝します」と喜びを語りました。



職種、年齢超え、鍋料理で交流

2|16

町内の青年5団体で構成する若者の輪創造プロジェクト実行委員会主催の「鍋KA KOMAナイト2」が2月16日、津村会館で開催され、町内外から参加した約80人が鍋料理で交流しました。昨年に引き続き、今回も鍋の具材は、スープや肉、野菜など計42種類からグループごとに指名しあうドラフト制で選択。1つの食材に指名が重複すると、くじ引きで抽選が行われ、大きな盛り上がりを見せました。獲得した食材は、それぞれのテーブルで煮込み、個性的な鍋料理に変身。互いに試食して感想を語り合うなど、職種や年齢を超えた交流が図られました。



地域一大行事 勇足地区公民館まつり

2|17

第36回勇足地区公民館まつり（実行委員会主催）が2月17日、同公民館を主会場に開かれました。今年も地域あげて的一大行事として、カルタ大会をはじめ、ゲートボール大会、バザー、作品展など多彩な催しに、延べ約450人が来場。中でも一番の盛り上がりを見せる芸能発表には、勇足保育所の幼児や小学生、地域の人など団体・個人合わせて総勢120人以上が出演し、カラオケや息のあったダンス、民謡や舞踊など趣向を凝らした演出に、たくさんの来場者から大きな拍手が送られました。



平成となつて、はや30年。治から数えると、150年。北海道と命名されて、150年自：2018年は、時代のさまざま区切りの年といえます。この「歴史写真館@ほんべつ」は、過去のできごとが現在にどうつながっているのか、これらにどう伝えていくのかを探るためのページです。12回の連載を通して、昔の写真と今に残る「もの」を結び、時代を追つて紹介していきます。



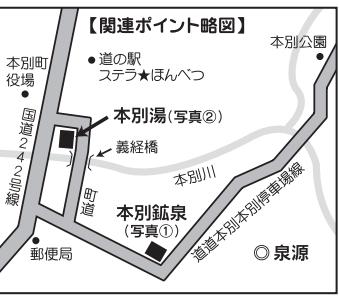
①本別鉱泉に集う人々（明治30年頃撮影／歴史民俗資料館所蔵）



今から120年以上前、本別最初の和人定住者篠原相松が現在の向陽町の山手で浴場経営を始めたと、『本別町史』に記載があります。これが前身となり、明治30（1897）年に「本別鉱泉」（初代経営者水井雅治）が鉱泉宿として開業されました。当時から地元ばかりでなく多くの旅の人にも利用されていたようです。

その後、大正11（1922）年、朝日町に温泉旅館として移転。東町にある泉源から木管を通して鉱泉を引いていました。やがて旅館と温泉が別々に経営されるようになり、客室と自炊室を持っていた旅館は、下宿屋を経て昭和50年頃には廃業しています。

一方、温泉はその湯号を本別鉱泉と改称しながら営業を続けました。現在の「本別湯」が別々に経営されるようになり、客室と自炊室を持っていた旅館は、下宿屋を経て昭和50年頃には廃業しています。



◆お願い◆
歴史民俗資料館では、昔の様子を伝える写真や地図、生活道具、商店や会社で使ったものなどの実物を、また図書館では、地区や団体の記念誌、個人の自分史などの刊行物を収集しています。寄贈していただきたいだけのものがあります。ぜひご連絡ください。

連絡先
歴史民俗資料館
(☎) 222-12141 内410
図書館 (☎) 222-15112



②現在の本別湯

ほんべー
トーナメント

豊かな音色に大きな拍手 2/24

本別ジュニアプラスアンサンブル（山田衣純団長）の第20回定期演奏会が2月24日、本別中央小学校で開催されました。演奏会は2部構成で行われ、小学1～6年生の同団員16人が、映画音楽や歌謡曲など、アンコールを含む13曲を披露。演奏の間には団員らが元気良く曲を紹介し、また、町内の吹奏楽関係者や団員の親など約60人が合同で演奏する企画も催され、会場に訪れた保護者や友人など約130人から大きな拍手が送られました。



舞踊と民謡が共演 2/25

町文化協会と町教育委員会が主催するほんべつ学びの日夢風事業「第41回舞踊と民謡の祭典」が2月25日、中央公民館で開催されました。昨年度から「民謡・三味線発表会」と「舞踊祭」が合同開催となったイベントには、同協会加盟団体など14団体58人の出演者が、目ごろの練習の成果を27演目で披露。舞踊と民謡の共演による「ドンパン節」の発表や、近隣町村文化交流も行われ、約250人の来場者から温かい拍手が送られました。



情報を広報電算担当へお寄せください 202-18121

シーズン本番に向けて記録に挑戦 2/25

本別陸上クラブ（我妻勇次会長）が主催する第38回本別町室内陸上競技会が2月25日、銀河アリーナで開催されました。大会はトラックとフィールドの全21種目で競技が行われ、十勝管内外の小学生から一般まで38団体から274人がエントリー。シーズン本番を控え、冬場のトレーニングに取り組んできた選手らは、記録の目標達成を目指して全力で競技に挑みました。



10回目の地域交流もちつき会 2/22

第10回ゆうあいの里地域交流もちつき会が2月22日、勇足地区公民館で行われました。この交流会は、同地区で活動するゆうあいの里、ゆうゆうサークル、福寿草の会など4団体協力で毎年開催されているもの。はじめに、第10回を記念してくす玉が割られ、引き続き、参加した小学生や高齢者が「よいしょ！よいしょ！」とおもちをついたり、あんこを包む作業を行い、つきたてのおもちを味わいながら、世代を超えた交流を楽しみました。



キンボールで交流 2/24

町スポーツ少年団交歓大会（町スポーツ少年団本部主催）が2月24日、町体育馆で開かれました。大会には、町内7少年団から11チーム約70人が参加し、恒例のキンボールで交流。選手らは、直径1.22mのボールを使ってヒットやレシーブを繰り返しながら得点を競い、爽やかな汗を流しました。



水泳全道大会、頑張ります 2/22

2月25日に札幌市で行われる第40回全国JOC春季水泳競技大会北海道予選会に出場する本別水泳少年団（及川哲夫代表指導者）の団員4人が2月22日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に全道大会出場を報告しました。選手らは、それぞれの出場種目のほか、「ベストタイムを更新できるよう頑張ります」などと抱負を語り、中野教育長は、「体調管理に気を付けて、頑張ってください」と激励しました。



全道大会の結果
各選手、ベストタイムを更新するなど、健闘しました。

**学生も
国民年金保険料を
納めないとけない？**

日本国内に住む全ての人は20歳になる
と、国民年金に加入し、国民年金保険料
を納めることを義務付けられます。学生
も保険料の納付を義務付けられます。
一般的に学生は所得が少なく、保険料を
納めることが難しいため、申請により在
学期間中の保険料の納付が猶予される
「学生納付特例制度」が設けられています。

○ 対象になる人
大学（大学院）、短大、高等学校、
等専門学校、専修学校、各種学校（修業
年限が1年以上の課程）に在学する学生
等で、本人の前年所得が次の計算式で計
算した金額以下の人です。
○ 所得のめやす
118万円+扶養家族等の数×38万円

**国
民
年
金**

その192

詳しくは
住民課戸籍年金担当へ
202-8128
日本年金機構のホームページは
<http://www.nenkin.go.jp/>



同一の学校に在学している人は、はがきに必要な事項を記入し、返送することで平成30年度の申請ができます。この場合は、学生証の写し等の添付は不要です。なお、平成30年度は保険料の納付を希望される場合は、帯広年金事務所へご連絡ください。

○ はがき形式の申請書について
学生納付特例により、平成29年度に保険料納付が猶予され、平成30年度も在学予定の人へ、3月末にはがき形式の学生納付特例申請書が発送されます。

次のもをお持ちになり、役場住民課戸籍年金担当窓口で申請してください。
・マイナンバーカードまたは通知カード
と本人確認書類（免許証等）
・年金手帳
・学生証、または在学証明書（原本）

○ 申請方法
申請時点から2年1か月までの期間について、さかのぼって申請することができます。
○ 申請できる期間

絵本づくり、楽しいね 3|3

家庭教育支援事業「なかよし」ファミリーデーが3月3日、子育て支援センターで開かれました。普段なかなか支援センターに遊びに来ることができないお父さんやきょうだいなどが一緒に遊べるよう、土曜日に施設が開放されたこの日は、親子ができる簡単な絵本作りも行われ、8組21人の親子が参加。参加者らは、図書館ボランティアぶつくる会員の協力のもと、それぞれ好きな絵を描いたり、用意された食べ物や乗り物などのイラストを切ったり貼ったりしながら、世界に一つだけの4ページのかわいい絵本を完成させました。



オンリーワンの商品作りで活性化を 3|5

道の駅研修会（町主催）が3月5日、道の駅「ステラ★ほんべつ」内多目的ホールで開かれました。「本別町まちなか活性化+道の駅魅力UP策」と題し、中小企業のコンサルタントなどを手掛けるRMS経営代表の新宮隆太氏が講演。新宮氏は、国内中小企業の動向のほか、客単価を向上させる戦略の重要性等を解説した上で、「農業者と商業者が連携し、本別町の強みを生かしたオンリーワンの商品作りを進めてほしい」と語り、参加した道の駅関係者など30人が、真剣な表情で耳を傾きました。



2クラス47人が卒業 3|1

本別高等学校の普通科第70回卒業証書授与式が3月1日、同校で挙行されました。式では、多くの卒業生の保護者が見守る中、佐藤涉校長が卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡し、「本別高校で学んだ」という誇りを持ち、共に学んだ仲間を大切にして今後の人生を歩んではほしい」と祝福の言葉を贈呈。卒業生を代表して富田綾盛さんが、3年間の思い出と担任や在校生、保護者などへの感謝の言葉を述べ、2クラス47人が思い出の学びやを後にしました。



多彩な演目に大きな拍手 3|3

第32回高齢者文化祭（老人クラブ連合会主催）が3月3日、中央公民館で開かれました。この文化祭は、高齢者相互の生きがいを高めるとともに、親睦と文化交流を目的に毎年実施されているもので、芸能発表には、町内11老人クラブから約60人が出演。カラオケや民謡、フラダンスなど、多彩な演目が次々とステージで繰り広げられ、約200人の来場者から大きな拍手が送られました。



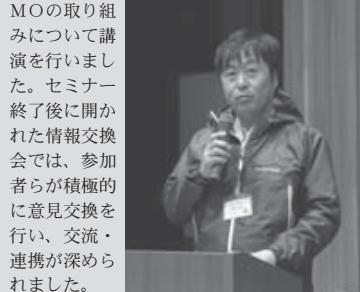
福祉計画案へ意見を具申 2|28

第4回健康長寿のまちづくり会議（井出午会長）が2月28日、総合ケアセンターで開かれました。会議では、2月中旬に町内3地区で開催された地域説明会における第7期銀河福祉タウン計画と第1次障がい福祉総合計画等に関する意見が報告された後、それぞれの計画案について、出席した委員18人で慎重に審議。これによりすべての計画が承認され、井出会長から、計画案についての意見が高橋正夫町長へ具申されました。



新たな人の流れ創出に 2|28 向けて3町で意見交換

本別町と足寄町、陸別町の3町圏域における将来の観光地域づくり推進に向けた「とかち東北部観光地域づくりセミナー」が2月28日、あしょろ銀河ホール2Fにおいて開催され、関係者など約60人が参加しました。セミナーでは、観光客やインバウンドなど新しい人の流れをつくるため3町が進めている「道の駅連携」や、新たな食ブランド構築等の取り組みについて発表があり、本別町でKOYA-La b.（コヤラボ）を主宰する岡崎慶太代表からは圏域内の周遊モデルルート開発を報告。また、摩周湖観光協会の中嶋康雄会長は摩周DMOの取り組みについて講演を行いました。セミナー終了後に開かれた情報交換会では、参加者らが積極的に意見交換を行い、交流・連携が深められました。



平和ポスター コンテストで最優秀賞 2|27

ライオンズクラブ国際協会が主催する平和ポスターコンテストの地元コンテスト入賞者等表彰式が2月27日、本別中学校で行われました。同コンテストは11~13歳の児童・生徒を対象に、今年は「平和の未来」というテーマで実施。審査の結果、本別中学校1年の西村真優さんが最優秀賞、同じく廣瀬乃愛さんと向井七海さんが優秀賞を受賞し、本別ライオンズクラブの砂原勝会長から賞状などが手渡されました。また、道東・道北エリアの選考でも、西村さんが最優秀賞、廣瀬さんと向井さんが優秀賞を受賞。さらに西村さんの作品は全道エリアでも最優秀賞に選ばれ、日本代表8作品のうちの一つとして同クラブ本部（アメリカ）へ出品されました。



防災体制を確認 2|27

本別町防災会議（会長=高橋正夫町長）が2月27日、役場で開かれました。会議には本別警察署や消防署、建設業協会など関係機関から18人が出席。平成28年度の連続台風による被害状況や今年度に作成された避難所運営マニュアルなどが報告されたほか、町地域防災計画の見直しや、平成30年度防災事業の実施計画について協議が行われ、今後の防災研修会の開催や食料、防災行政無線等の更新整備、防災ガイドマップの見直しなどについて確認しました。



ほんべつ 29
2018.4

ほんべつ 28
2018.4

本高吹奏楽部が老人ホーム慰問

3|17

本別高校吹奏楽部（貝瀬末有部長）の部員14人が3月17日、町老人ホームを訪問し演奏会を行いました。これは同部が音楽の楽しみを提供し、お年寄りとの交流を図るために開かれたもので、演歌や歌謡曲など6曲を披露。入所者は部員らが奏でる音色に感動して大きな拍手を送ったり、喜びで歓声をあげたりするなど、たくさんの元気をもらっていました。



子育て計画を協議

3|19

平成29年度第3回の本別町子ども・子育て会議が3月19日、役場で開催されました。任期満了に伴う委員改選により、はじめに高橋正夫町長が出席した委員9人に、委嘱状を交付。会長、副会長は互選により、会長に田西昭子さん、副会長に山下知子さんが選出されました。会議では、町担当者から「未来にひろがるまめこすくすく計画」の変更について説明があり、全会一致で承認されたほか、平成30年度の子ども・子育て関連施策等についても説明がありました。



百歳おめでとうございます 町敬老祝い金の贈呈

3|12

河野てるさんが3月10日に100歳を迎える、同12日、高橋正夫町長から敬老祝い金が贈呈されました。

てるさんは、大正7年3月10日に足寄町でお生まれになり、故仁八さんと結婚を機に本別町へ移住。農業を営む傍ら、産婆としても活躍し、町内で多くの出産に携わりました。自身は、4男3女のお子さんを育て、孫9人、ひ孫7人、やしゃご4人にも恵まれ、平成19年からは本別町特別養護老人ホームに入所。お祝いのこの日は、次女の矢吹房子さんと三男の河野文敏さんがてるさんのもとに駆け付けました。てるさんは、100歳を迎えたことについて、「とてもうれしい」と笑顔で喜びを語りました。



太古のほんべつを学ぶ

3|17

ほんべつ学2018冬の学び（町教育委員会主催）が3月17日、足寄動物化石博物館で行われ、町内の小・中学生など15人が太古のほんべつを学びました。初めに、道具を使って石を削り化石やクリスタルを見つけ出す「ミニ発掘体験」や、石こうを使った「化石のレプリカ作り」を体験。また、恐竜の化石などが並ぶ展示室を見学し、同博物館の新村龍也学芸員から、「本別町の地層から貝や海の動物の化石が発見されていて、昔の本別は海だったことがわかります」と説明を受け、参加者らは太古の本別に触れるひとときを過ごしました。



「かしわの会」150回をお祝い

3|8

柏木町自治会福祉部（田西昭子部長）による認知症予防教室「かしわの会」が開催150回を迎え、その記念行事が3月8日、本別生活館で開かれました。同会は、平成17年に町からの声掛けで始まり、平成18年からは自治会独自の活動として、毎月1回ゲームや体操、健康に関する講話などを実施。記念のこの日は、平成29年度の終了式も併せて行われ、150回精勤者や1年間皆勤者へ表彰状が贈られたほか、田西部長が150回を迎えた喜びの思いを語りました。続いて、手遊びなどの簡単な体操やゲームを行ったあと、参加した40人で食事を囲みながらおしゃべりに花を咲かせ、楽しいひとときを過ごしました。



社会福祉関係功労者4人を表彰

3|8

社会福祉関係功労者等十勝総合振興局長表彰状の伝達式が3月8日、役場で行われました。この表彰は、社会福祉関係団体役職員として15年以上在職し、その功績が特に顕著な人や、社会福祉施設関係業務に15年以上従事し、特に優秀な業績がある人に贈られるもの。本別町では今年度、計4人が受賞しており、伝達式では、高橋正夫町長から出席した3人に表彰状が手渡されました。受賞者は次の通り。

社会福祉関係団体役職員

田原美枝さん、佐々木修治さん

社会福祉施設関係業務従事者

笠原君枝さん、遠山文子さん



農業塾で成果を発表

3|7

平成29年度第5回本別町農業塾（町主催）が3月7日、津村会館で開かれました。今年度の農業塾は昨年7月に開講し、この日は最終回として、JA本別町青年部4支部が今年度のポリシーブックの取り組みについて成果を発表。同青年部は昨年から、支部ごとに新規作物への挑戦や食育、農村ホームステイの受け入れなどを展開しており、「アピオス、ヤーコンなどの生産体系を確立できた」「道外の学生に農業と食の大切さを伝えることができた」などと述べ、さらに、来年度への抱負も語られました。最後は、閉講式として、高橋正夫町長とJA本別町の田中敏行組合長が出席した30人へ激励の言葉を送りました。



数藤肇さんが、旭日単光章を受章

3|8

元本別町議会議員の数藤肇さんが旭日単光章を受章し3月8日、帯広市内の自宅で十勝総合振興局の坂部浩明副局长から勲記と勅章が伝達されました。数藤さんは、平成2年8月に本別町議会議員に当選して以来、平成14年8月まで3期12年在職。その間、文教民生常任委員会副委員長や、本別町監査委員などを歴任し、本町地方自治の育成・発展に大きく貢献されました。受章について数藤さんは、「地方自治の仕事を懐かしく感じています。家族一同、感謝申し上げます」と喜びを語りました。





弥生町
宍戸里帆
(謙介パパ)

未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育つね!

みんなのコーナーご利用ください

広報ほんべつでは、町民の皆さんとのサークル活動や各種お知らせを気軽に掲載できる「みんなのコーナー」を、このスペースに随時設置しています。会員や仲間の募集、体験会の開催など、掲載の希望がありましたら、ぜひご活用ください。掲載にあたっては、原稿および写真データ等をご用意いただきます。町内外の企業や町外の団体・サークルが主催・主体となるものおよび町内の団体等であっても、営利に関わる内容等は掲載できませんのでご留意ください。

▶申し込み方法 発行日（毎月1日）の30日前までに、企画振興課広報電算担当までお申し込みください。掲載を希望する場合は、早めにご連絡ください。掲載内容をお伺いした上で、掲載の可否を決定させていただきます。紙面の都合などでご希望に添えない場合もございますので、ご了承くださいますようお願いします。

▶その他 町文化協会や町体育協会等に加盟している団体・サークルは、くらしの情報紙かけはしに掲載できる場合があります。事前にご相談ください。

▶申し込みおよび問い合わせ 企画振興課広報電算担当 ☎ 22-8121

ご寄付ありがとうございます

平成30年2月16日から3月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上を借りて厚くお礼申し上げます。（敬称略）

★本別町国民健康保険病院医療施設等整備基金
金 30,000円…………… 負筋2 西谷浩美

★本別町議会指定
絵画 1点…………… 南2丁目 北谷昇治

★老人ホーム指定
バスタオル 6枚、タオル35枚、ぞうきん15枚
…………… 本別町赤十字奉仕団 委員長 西出好子

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付

計 金 3,555,000円…………… 183人

公金不適切処理に関する 関係職員の処分等について

公金の不適切処理に対して、処理期間における担当課長について、次のとおり処分等を行いましたのでお知らせします。

議会において給与の減額条例の可決

- 対象者 副町長
- 減額の内容 1か月10%減額（4月分）
- 条例可決日 平成30年3月16日

地方公務員法第29条第1項の規定に基づく懲戒処分

- 被処分者 課長（男）
- 処分の種類 懲戒処分 戒告
- 処分年月日 平成30年3月12日

事案の概要

平成22年4月1日から平成27年3月31までの間、町税2,251,400円を横領したとして、逮捕・起訴された元職員についての監督責任。

みんなの 健康

404

「ベジ・ファースト」という言葉を聞いて、みなさんはどうなことを思い浮かべますか？野球用語？政治用語？いいえ、「ベジ（ベジタブル）・野菜・ファースト」とは、「食事のとぎ野菜が食べ始めること」を言います。

最近、栄養指導でお話をさせていたぐときには、食事内容の食べる順番について聞き取りをしています。「最初はご飯から食べている」「副食の野菜から食べている」「ご飯を食べている」「ご飯を食べたのを我慢して野菜から食べてている」などいろいろな答えが返ってきます。食事内容には、主食（ご飯やパンなど主に

や）、副食（野菜や肉、魚などを含む食品）、副菜（野菜など主にビタミン類や食物繊維などを多く含む食品）と大きく3つに分かれますが、その中でも野菜やきのこ、海藻等に多く含まれている食物繊維を先に取りると、食品に含まれる糖質の消化・吸収速度が遅くなります。これにより、食後血糖値の上昇が緩やかになります。糖尿病を予防します。また、食物繊維の多い食品は、よくむことが必要となり、必然的にゆっくり

と食べるこ

とによって

満腹感を得られやすく、食べ過ぎないことで肥

満予防にもつながります。さらに、食物繊維は脂質やコレステロールの吸収を抑える働きもあり、動脈硬化の予防になります。

数々の効果が期待できる「ベジ（ベジタブル）・ファースト」、皆さんも始めてみませんか！！

今年も「春のことどフェスティバル」が開催されます。多彩な催しを用意していますので、ぜひご参加ください。

□日 時 5月6日(日)

午前9時～午後1時

□場所 ネイパル足寄

□内 容 熱気球搭乗体験、縁日、アトラクション、食事コー

ナーホカ

□その他の入場は無料です。

□問い合わせ 上靴を「持参」ください。

□大人的ためのパッチ（メンソコ）の大会です。「もう一度あの頃の腕を振るいたい」。

あなた「ぜひ一度」「あなた」「ぜひ一度」「ご参加ください。

□場 所 陸別町タウンホール

□参加資格 20歳以上の男女

（先着96人）

□参加料 1,700円

□問い合わせおよび申し込み

陸別町役場産業振興課内

大会事務局

☎ 271-2141 内線135

□問合せ窓口

北海道立青少年体験活動支援施設

ネイパル足寄

☎ 251-6111

<http://www.naparashoro.hokkaido.jp>



銀河ホアアラニア

一足寄町・陸別町から

ネイパル足寄の 春のイベントに 参加しませんか

□場所 ネイパル足寄
□内 容 热気球搭乗体験、縁日、アトラクション、食事コー

ナーホカ

□その他 入場は無料です。

□問い合わせ 上靴を「持参」ください。

□大人的ためのパッチ（メンソコ）の

大会です。「もう一度あの頃の腕を

振るいたい」。

あなた「ぜひ一

度」「ご参加ください。

□日 時 4月15日(日)

午前10時から

□場所 陸別町タウンホール

□参加資格 20歳以上の男女

（先着96人）

□参加料 1,700円

□問い合わせおよび申し込み

陸別町役場産業振興課内

大会事務局

☎ 271-2141 内線135

□問合せ窓口

北海道立青少年体験活動支援施設

ネイパル足寄

☎ 251-6111

<http://www.naparashoro.hokkaido.jp>

戸籍のまど

お誕生

永井 穂 老 2/15 向陽町

金山 翔 太 3/3 上押帶

ご結婚

(田 中 誠 一 さん 共 栄 1
木 村 智 美 さん 旭 川 市)

おくやみ

高岡きみ子さん 94歳 2/15 南2丁目

西谷輝夫さん 87歳 2/17 負籠2

宮崎三郎さん 76歳 2/23 栄町

星シゲさん 88歳 2/24 北3丁目

荒木芳夫さん 84歳 2/25 向陽町

井出セイ子さん 87歳 3/3 美里別西上

石山昭夫さん 89歳 3/5 新町

高橋シズ卫さん 82歳 3/5 仙美里3

風間梢さん 76歳 3/8 緑町

安藤美智子さん 89歳 3/10 柏木町

菊地利昭さん 68歳 3/12 南4丁目

わたくしたちのまち

前月比

人口 7,212人(-28)

男 3,531人(-25)

女 3,681人(-3)

世帯数 3,679戸(-21)

〔2月末日住民基本台帳〕

本のある暮らし 205

スヌーピー[®]
日本デビュー50周年～世界一有名な
ビーグル犬と仲間たち～

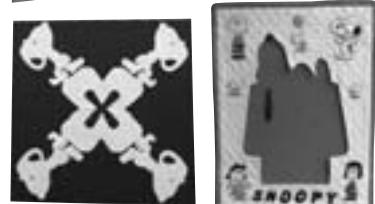
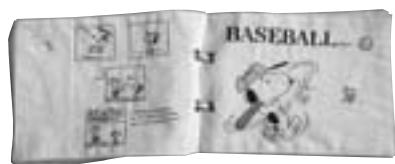
白いビーグル犬のキャラクター・スヌーピーはよく知られていますが、彼が登場するマンガ「ピーナッツ」のことは、あまり知らないのではないでしょうか。1950年、アメリカの新聞7紙で連載が始まった「ピーナッツ」。日本では1967年に初めて単行本が出版され、今年50周年を迎えます。



実は
主人公じゃない
スヌーピー

チャールズ・M・シュルツ作のマンガ「PEANUTS (ピーナッツ)」は、主人公の少年チャーリー・ブラウンとその仲間の物語。子ども同士のやりとりが、面白く鋭く描かれています。スヌーピーはチャーリーの飼い犬で、読書とスポーツが大好き。観察眼を持ち、心の声をつぶやく不思議なビーグル犬です。

実は
日本人の方が
スヌーピー好き?



図書館では子どもの読書週間(4/23~5/12)中、スヌーピーの本やボランティアによる手づくり作品などを展示します。としょかんこどもまつりでは、スヌーピーをデザインした工作教室も予定。皆さん、スヌーピーに会いに来てください!

詳しくは4月15日号くらいの情報紙「かけはし」でお知らせします



お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称: ぶっくるーお)
本別町北2丁目 電・FAX 22-5112

■発行 本別町 / 〒089-3392 北海道中川郡本別町北2丁目4番地1 ■ホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/>
■編集 企画振興課広報電算担当 TEL 0156-22-8121 FAX 0156-22-3237 ■印刷 本別印刷株式会社